

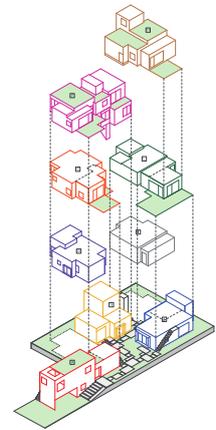
緑が丘の「緑の丘」 / 建築の構成がつくる風景†

若松均*

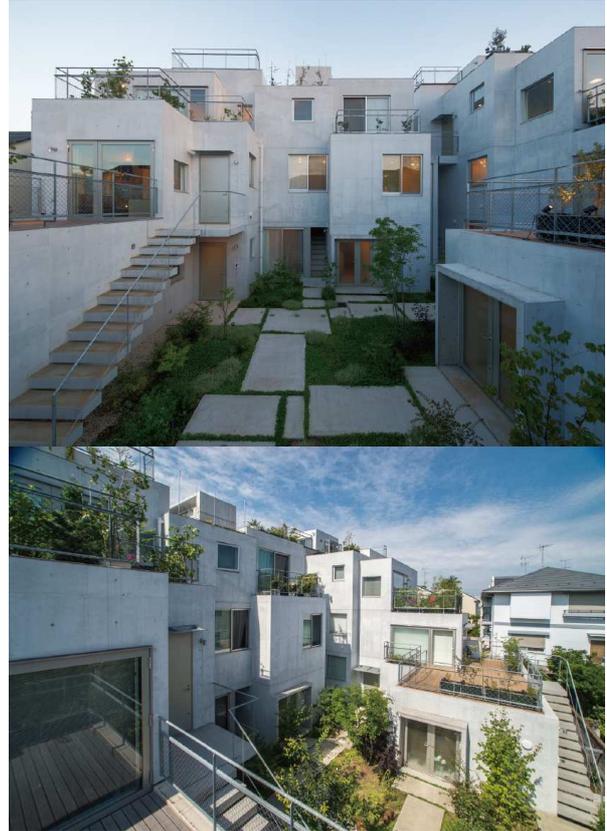
1 はじめに・設計コンセプト

敷地は、地形的に大きな丘のちょうど頂きに位置し周辺よりも小高い場所にある。間口が狭く奥で幅広になる土地には、かつて古い家屋と広い庭、そして懐かしさと静寂さが残されていた。この場所に見合う建物は、ランドスケープ的・都市的な展開の中で、僅かにでも緑の記憶を継承し時間を感じさせるものでありたいと考えた。建築の構成は、住戸の単位ではなく、より小さな単位の手掛かりにしている。ひな壇状にハコを積み上げ廻りの「地形」に習って「丘」のような全体像とする。そして地上の緑と上に行くにつれセットバックすることで、テラスの草木や樹木が連なり、小さな「緑の丘」を連想させる建物とした。大小それぞれ気積の異なる複数のハコの組み合わせでできた各戸内部は、段差や天井高さのメリハリのあるひと繋りの広いワンルーム空間をつくる。同時に一軒家のように複数の庭・テラス・屋上があり、あちらこちらで内外が関わる計画である。住まい手の皆が共有する中庭を取り巻くように配置された住戸は、それぞれオープンな「内」「外」とプライバシーが保たれた「内」「外」が、グラデーションにつながり「中庭」に向かって生活の場が広がる。お互いが、背を向けるのではなく領域感を保ちつつ程よい距離感で垣間見え、独立性と連続性を兼ね備えた環境を形成する。地面の庭はもちろん住人たちのものであるが、隣家や公道にも開けていて、閉じたコミュニティの場というより、通過動線であり、街との中間領域でもある「だれのものでもない中庭」である。樹木や草木が時の経過と共に成長するように、それぞれ工夫のある生活が共存しつつ時を経てゆっくりと育まれれば、と考えている。

2 図面・断面図/アクソメ図



3 作品写真・外観



4 受賞

- ・ 2018年日本建築学会作品選奨
- ・ 第19回JIA環境建築賞優秀環境建築選
- ・ 2017年度グッドデザイン賞

† 原稿受理 平成31年2月28日 Received February 28, 2019

* 建築学科 (Department of Architecture)

